

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

2016
No.
51
30 Apr

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部

発行日 平成 28 年 4 月 30 日



第9回 Toktok会 開催 蝶の王様「アレキサンドラトリバネアゲハ」

賀部 祥史 (当協会会員)

2月に開催された第9回 Toktok 会は、古谷講師の「PNGの蝶」のお話でしたが、たちまち少年時代の懐かしい情景にタイムスリップして聞き入ってしまいました。パプアニューギニア東部のオロ州の限られた場所に分布しているアレキサンドラトリバネアゲハという蝶は、世界最大の蝶と云われており、翼長は 28cm 以上にもなるそうです。周辺の森林の破壊がこのまま続くと、数十年以内に絶滅するのではと懸念されています。

以前、ポートモレスビーの国会議事堂のロビーに展示されているこの蝶の標本を見ましたがそれは見事なもので、昆虫採集少年だった私は胸躍り大感激でした。機会があれば本物の飛行を一度は見てみたいものです。

ところで皆さんは日本にいる蝶の種類をご存知ですか？おおよそ 250 種位だそうです。

私が少年時代に一番多く採集した「アサギマダラ」という蝶は、翼長 5～6cm の美しい蝶で、日本全土、朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤ山脈にも生息しており、和歌山県でマーキングしたアサギマダラが、2500km 離れた香港で捕獲された例もあるそうです。

講演の中でパプアニューギニアの観光資源に蝶を加えるお話が出てきましたが、私もこの提案には大賛成です。

以前、マレーシアを旅行した折に、写真のような蝶の標本を購入いたしました。今も私の仕事部屋にしっかりと飾られており、毎日必ず眺めております。

古谷さんのこのご提案は、是非とも皆様のお力をお借りして実現したいものです。毎日アレキサンドラに逢えるとは夢のようです。お手伝いできることがあれば、喜んで参加いたします。

【町田パプアニューギニアマラソン大会】

第1回コゲ村ムアイナ (MUAINA) 高校



志村 容一 (当協会副会長)

2016年2月22日(月)町田市クレインライオンズクラブ主催のマラソン大会がPNGチンブー州コゲ村で行われた。

「コゲ村でマラソン大会」当クラブが15年前からコゲ村に学校を寄贈させていただいている関係から今回の話が持ち上がった。マラソンと言っても15kmのミニコース。ただ共催するムアイナ高校にとっては初めてのマラソンということで、どうしていいのかわからず困惑の様子。事前に予選会を行い、上位30名の出場となった。

さて当日の朝、天気心配な中、町田から来た10人のメンバーは会場の高校へと歩き始める。実は迎えの車がパンクしたとのことで宿まで来なかったのだ。高校は高台に建っているので私たちの様子が見えていたらしく騒がしくなっている。迎えに来てくれた先生の誘導で校門へ。すごい人数の生徒が門から校庭まで両側に並んで迎えてくれた。入場の合図と共に「おはよう」を連呼しながら前へ進む。皆、「感動」である。

朝礼台に登壇し、朝礼を開始する。すごい生徒の数だ。「第一回コゲ村ムアイナ (MUAINA) 高校町田マラソン

大会」の開催を宣言し、トロフィーを並べ、全員で挨拶をした。Tシャツや化粧品など多くの賞品を見て生徒たちは大興奮である。トラックに全員で乗り込み、いざ出発地点へ。悪路の連続の末、約40分後に『天空の広場』といってもおかしくない丘の上に到着した。思わず周りの景色に見とれてしまう。選手たちはコーチの指導の下、準備体操。そして学校へ連絡を取り、いざスタート！

我々は途中経過を写真に撮りたいので小型車にてマラソンスタート前に出発していた。選手たちが猛スピードでどんどん車に近づいて来る。中には靴の大きさが合わないのか裸足の選手もいる。悪路なのに早い。車は行きとほぼ同じ所要時間でゴールである学校へと到着した。やがて1位、2位が見えてきた。学校全体が歓声の渦。すごい声援。トップの選手はテープカットのスタイルがわからないのか、下へくぐってしまった。1位は49分！何とも早い。2位は1分後にゴール。4位には女子が入賞。全員に賞品が渡り、記念シャツを着て写真に納まった。大会終了後、職員室にて反省会を行い、第二回マラソン大会開催を約束して解散した。



松本 盛雄（在パプアニューギニア特命全権大使）

3月上旬、当地米大使館などの主催で開催された「女性フォーラム」で、当館現地職員のアポーシャさんが草の根無償資金協力「レイタナネハン女性開発機構人材センター建設計画」について説明し、参加者の関心を集めました。このプロジェクトは日・米・NZ3カ国が協調して実施したもので、日本は性暴力被害者用のカウンセリング室、就職支援のための調理実習室・裁縫室などを建設し、米国は技術訓練に係る費用を負担、NZはエアコン・発電機等を設置します。

フォーラムでは、私と現地NGO代表との間でもう一件の草の根無償資金協力案件「カウゲレ地区人材開発センター建設計画」の署名式も実施しました。これも日・米協調による女性支援プロジェクトです。同席した米国エバート・グレイ大使は、着任早々この重要イベントを主催できたことを喜ぶとともに日本の支援を高く評価しました。私は今後もこれらの事業を通じ、米国等とともにPNGにおける「女性が輝く社会」構築に向けた努力を支援していききたいと思います。



アポーシャ・ララトゥテ職員による当館の取り組みの発表



ロドニー・トムリエサ代表 エバート・グレイ米国大使 松本大使
草の根無償資金協力の署名式

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

2016年3月29日に遂にパプアニューギニア大使館のWebsiteがリニューアルされ、Facebookも新たに開設されました。それに伴い、3月29日夕方、パプアニューギニア大使館内にて関係者十数名で大使館にて軽くお披露目会が催されました。今後は、Websiteにてパプアニューギニアの最新ビザ情報、投資に関する情報など、その都度アップデートしていきます。またFacebookでは、いろいろなイベント情報を発信していきます。

例えば4月6日にアジア婦人会主催のアジアオセアニア24か国で構成されるALFSバザーの様なども、既に写真入りで掲載されています。

今後もさらなる進化を目指していきますので、皆様からもご意見等を頂き、アップグレードしていければと思います。

今後ともパプアニューギニア大使館を引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

URL <http://png.or.jp> **Facebook** **Kundu Tokyo—パプアニューギニア大使館**



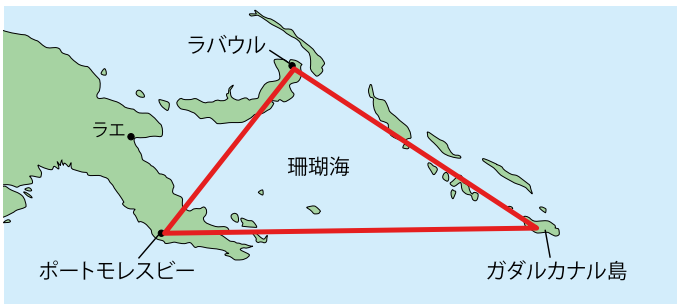
ポートモレスビー感傷旅行

弊社は2009年12月に千代田化工建設と共同でエクソンモービル向けLNGプロジェクトを受注した。完工に至るまで幾多の困難に見舞われたが、それらを乗り越え、4年余の歳月をかけて成功裏に完了した。同プロジェクトはパプアニューギニア史上最大のものであり、同国歳入への貢献、技術移転、雇用確保に貢献する一方、プラントから生産されるLNGを輸入する日本にとっても非常に意義深いものである。



ところでこの建設現場は首都ポートモレスビーから25 Km 北西に位置するのだがその名前を聞いて私には特別の思い出があった。

昨年8月機会を得てラバウルとガダルカナル島へ戦跡探訪、慰霊のツアーに参加したのだが日本から行くにはいずれもこのポートモレスビー（マ港）を経由するのである。地図に見られる通りガ島は真東に約1500Km, ラバウルは東北約800Kmの距離にありツアーは日本から直行便で先ずマ港につき乗継便で約3時間をかけてガ島に向かう。ラバウルにはそこから一旦マ港に戻り今度は2時間かけて到着するのである。余談乍らこの飛行場はいずれも戦時中日本軍が建設したものであった。



日揮株式会社 顧問 萱場 浩之

私たちはガ島ではムカデ高地、アウステン山、イル川河畔など激戦地の各部隊の慰霊碑に参拝した。驚いたことにガ島にも日本の建設会社が進出しホテルを運営し傍ら、現地ガイド、慰霊碑の管理をしてくれており真に感謝の念に堪えなかった。戦史に読む瘡痍と飢えの地と現在は大いに異なり空調の効いたホテル、ちゃんとした食事、真に申し訳ない気持ちに苛まれた。ラバウルは日本軍が玉砕したわけでは無く陸海軍約15万人が終戦まで頑張り通した所だが多くの戦没者を出した。立派な記念碑があり手入れも行き届き有難かった。

しかし多くの戦地写真で見られる滑走路端の活火山「花吹山」が10数年前の大噴火で吹っ飛びその火山灰で飛行場が消滅してしまったのには驚いた。全ての地で我々は焼香と共に「海ゆかば」と「ふるさと」を斉唱し心から哀悼と感謝の気持ちを捧げて来たのである。

大東亜戦争開始後日本は米豪遮断の目的でマ港攻略を計画した。これを覚った米海軍はソロモン諸島の西側で上陸部隊を乗せた輸送船を護衛する帝国海軍を待ち伏せし昭和17年5月珊瑚海海戦が生じた。勝敗の見解は分かれるが結果として陸軍は海路のマ港攻略を諦めその対岸ラエに上陸脊梁スタンレイ山脈(4000米)を超え直線距離約220Kmの峻険を踏破し攻撃せんとした。しかし食糧、弾薬の不足に悩み最前線はマ港の明かりが見える所まで到達しながら力尽きてついに多大の犠牲者を出しながら無念の撤退をした。

日本軍はラバウル、ニューギニアにあってマ港からなされる2年間に亘る連日の空襲に悪戦苦闘を強いられ大消耗戦の結果敗戦に至るのである。

ツアーの帰路マ港のホテルから北方遙かに霞むスタンレイ山脈を見ながらここを目指して「見果てぬ夢」に斃れた数多の将兵、翻って何の苦勞もなくマ港で安穩と旅行を楽しめる現在の平和を想い感慨一入であった。

事務局からのお知らせ

2016年度初の機関誌、ごらくちよう51号をお届けいたしました。
本年度もTOKTOK会の開催、奨学生へ

の援助、ごらくちようの発行、メルマガの発行などを通じて両国友好のお役に立つよう頑張ってお参ります。中部支部、関西支部、ポートモレスビー支部の活発な活動も予定されています。

本年度の総会は6月27日(月)を予定しております。追ってご案内申し上げますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員:31社 ◆ 個人会員:162名 (2016年3月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-2-1 エース九段ビル8階 日本ビジネスライン(株)内
Tel:03-5216-3555 Fax:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員5,000円 法人会員50,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ